

ふるさとを愛し、ふるさとをルーツに、

未来を切り拓き、たくましく生き抜く子どもを育てるために

～「生きる力を育むプロジェクト」の取組を通して～

本巢市教育委員会 学校教育課

## 本巢市の事業の概要

教育は、子どもたち一人一人を「幸せに生きる」「よりよく生きる」その主体者にする営みであると考えています。また、子どもたちが生きる未来は、考える力、人と関わる交渉力、説得力、そして英語を含めたコミュニケーション能力などが必要になってきます。

**本巢市では、こういう力を伸ばすために、ターゲットを明確にした意図的な指導を行っています。まず、全ての子どもたちを対象に力を付ける指導を充実させることを考えています。次に、さらに個別の支援が必要な子どもへの指導を充実させています。加えて大切にしていることは、子どもの才能を開花させ、伸ばせる子をさらに伸ばす指導です。**

この指導を積極的に進めるため、専門性を有する多くの人材を学校に配置して活用しています。

市内全小学校で、全ての理科の授業に理科専門指導員として退職校長等4人を派遣しています。子どもたちの興味、関心を高めるような実験、観察を行っていただき、アンケートからも子どもたちは理科の面白さを十分感じています。

英語の授業は全て、担任と外国人のALT（外国語指導助手）、JTE（日本人英語教師）の3人体制とし、小学5、6年生における英語の教科化に向けて準備を進めています。ALTには、本巢市根尾のキャンプ場で夏休みに2日間英語漬けの生活を体験する「English Days in NEO」の開催にも協力してもらっています。小中学生がALTや英語科の大学生とともにどっぷりと英語の世界に浸り、英語によるコミュニケーションの充実感を体験する機会となっています。



個別の支援が必要な子どもたちに対しては、全小中学校に計50人の学習・生活支援員を配置しています。不登校の子どもをはじめとして、悩みを抱えている子どもには、教育相談員10人が対応しています。各校に配置して家庭訪問などを行い、担任を支援しています。

これらの事業は、本巢市が打ち出している教員の働き方改革の1つにもつながっています。

## 幼児期から体力を育てる「生きる力を育てるプロジェクト」

自分で未来を切り拓き、たくましく生き抜くためには、「知」「徳」「体」をバランスよく育む必要があります。この事業は、現在、「知」がクローズアップされることが多くありますが、全ての基盤となる心と体の健康と体力に焦点を当てたものです。

本巢市の子どもの体力は、平成28年度の調査によると、全国平均以下の県平均をさらに下回るという結果で、その中でも特に、持久力と筋持久力が劣っていました。当時の市内幼稚園の運動会の様子などから、幼児期からの遊び不足も影響していると考えました。本巢市は幸い、幼稚園と保育園の機能を統合した8カ所の公立の「幼稚園」をもっており、対象年代の9割以上が通っています。そこで、まず幼児期から体力を育成するためのプロジェクトを立ち上げなくてはならないと考え、「生きる力を育むプロジェクト」と題して徹底的に運動好きにさせ、体力や運動能力を高める取組をスタートさせました。

### 【具体的な事業の内容】

本巣市が目指す「たくましさ」は、強く折れないというだけでなく、しなやかさ、柔軟さも含んでいます。幼児期の運動は、丈夫な体づくりや危機回避能力の向上につながる一方、強くて優しい心や社会性も培われます。空間認知能力、言語力など頭脳の発達にも効果があるとも言われています。

こうした効果が得られるように、岐阜大学教育学部の春日晃章教授の協力を得て、運動プログラムを開発し、全ての園で日々の運動遊びを大改革しました。

## 本巣市立8幼稚園の取組

### 【本巣市教育委員会が計画した取組】

#### ○全体会 年4回

- ・第1回(4月)・・・岐阜大学 春日晃章教授による講演会
- ・第2回(7月)・・・運動会プログラムの検討
- ・第3回(9月)・・・運動会視察
- ・第4回(3月)・・・1年間のまとめ

#### ○運動プログラムの実践日(年16回)

※各幼稚園(年2回実施)

- ・第1回 岐阜大学 春日晃章教授による講演会  
(親子実技指導・園児の体力測定を含む)
- ・第2回 実技指導 主に岐阜大学の大学院生による運動遊び

### 【本巣市立8幼稚園による具体的な成果】

- ② 動能力の急激な向上(下記参照)
- ② 日々の保育の中で、園児が主体的に体を動かす“遊び”の増加
- ③ 運動会プログラムの刷新  
=運動会の練習自体が動きのレベルアップ
- ④ 幼稚園内での園児の笑顔や笑い声の増加  
(声も大きくなる)
- ⑤ 給食の残菜量の減少・夜早く寝る子の増加
- ⑥ メリハリをつけた聞く姿の向上
- ⑦ ルールを守る姿の増加

### ■本巣市立幼稚園運動能力測定結果 (H29最終報告より)

	年 長 男 児		
	立ち幅跳び (cm)	25m走 (秒)	ソフトボール投げ (m)
本巣市【春】 (全国平均)	91.84 (104.17)	6.45 (6.79)	5.76 (6.03)
本巣市【秋】 (全国平均)	100.10 (110.90)	6.16 (6.49)	7.95 (6.80)
半年間の伸び量 (全国平均)	8.26 <b>1.7倍</b> (4.85)	0.30 <b>1.1倍</b> (0.28)	2.19 <b>3.7倍</b> (0.60)

	年 長 女 児		
	立ち幅跳び (cm)	25m走 (秒)	ソフトボール投げ (m)
本巣市【春】 (全国平均)	83.96 (94.73)	6.70 (6.96)	4.08 (4.03)
本巣市【秋】 (全国平均)	94.77 (100.27)	6.36 (6.67)	5.59 (4.53)
半年間の伸び量 (全国平均)	10.81 <b>3.0倍</b> (3.55)	0.34 <b>1.5倍</b> (0.22)	1.51 <b>3.8倍</b> (0.40)

幼稚園の先生は、春日教授の講習会に参加し、運動遊びの重要性を理解したうえで、専門知識と指導力の向上に努めてきた。

一方、全ての園で保護者集会を開き、春日教授の話聞いてもらった。これは、取組に対する保護者の理解を得るとともに、家庭での“運動遊び”やふれあいを大事にしてもらうのがねらいです。

【平成30年度の取組】 小学校長会からの強い要望があり、この事業を小学校の低学年にまで拡大して実施しています。その他に、秋には、本巣市内全小学校の4年生を対象に、特に運動を苦手としている児童のみを集めて、運動の楽しさを感じさせるプログラムの実施をしました。また、スポーツ庁の「子供の運動習慣アップ支援事業」にも市町村で初めて取り組んでいます。